



明石のコミュニティ・スクール

未来にむけて 学びをかえる

未来を創り 社会を支える 新たな学びと育ちのシステムづくり

KomiKomiSukuSuku

明石市教育委員会事務局学校教育課 mail: gakkyo@city.akashi.lg.jp

For The Future

No. 154

2022

3.22

平田オリザさんのお話を聞くことができました

豊中市 第2回地域とともにある学校づくりフォーラム

第2回地域とともにある学校づくりフォーラム

(仮称)庄内さくら学園では、学校が掲げる「教育目標」などを共有するとともに、その実現に向けた方策や課題対応などをともに検討できるよう、これまで以上に保護者や地域住民の参画を得て、「子ども」を中心とした「地域とともにある学校」の仕組みを構築します。これらの取り組みに向け、「地域とともにある学校づくりフォーラム」をキックオフイベントとして開催します。

日時 2022年3月9日(水)19:00～20:45

会場 ローズ文化ホール(オンラインでも参加可能)

対象 (仮称)庄内さくら学園校区(庄内・野田・島田小学校区)にお住いやお勤めの方、(仮称)庄内さくら学園のコミュニティ・スクールに関わってくれる方なら、どなたでも参加いただけます。

定員 120名(事前予約制、先着順)
※申し込み方法は、裏面をご覧ください

内容 ①第1回フォーラムの共有
②学校と地域の連携に向けて
講師:芸術文化観光専門職大学 学長 平田オリザ 氏



平田オリザ 氏 プロフィール
劇作家・演出家。芸術文化観光専門職大学学長。劇団「青年団」主宰。江原河畔劇場芸術監督、こまばアゴ芸術芸術監督。
1962年生まれ。1985年『東京ノート』で第3回岸田博士賞受賞。2019年『日本文学賞』で第21回読者賞受賞。2019年『日本文学賞』で第21回読者賞受賞。2019年『日本文学賞』で第21回読者賞受賞。
活動の中心を置く多岐性。コミュニケーション教育にも取り組み、各地の自治体・NPOとも連携してワークショップを実施している。2019年より兵庫県豊岡市に在住し、劇団活動も行う。2021年より兵庫県豊岡市に在住し、劇団活動も行う。2021年より兵庫県豊岡市に在住し、劇団活動も行う。

豊中市では庄内地域における学校再編で「魅力ある義務教育学校」の開校に向け、準備を進めておられます。その準備の過程をオープンにし、みんなで新しい学校、未来に向けての学校を創ろうという当事者意識を共有するために、「地域とともにある学校づくりフォーラム」を開催されています。1回目は(仮称)庄内さくら学園の学校目標を含めこんな学校をつくろうと考えられたグランドデザインの説明や独自教科「庄内市民科SDG(庄内・大好き・元気)プロジェクト」の説明等がありました。そのあと、西孝一郎先生(京都光華大学准教授・CSマイスター)より「こどものためにみんなでつなぐ地域とともにある学校コミュニティ・スクール」をテーマに、庄内地域で未来に向けた学びを実現していくためには、地域みんなで子どもを育てるコミュニティ・スクールという仕組みが必要だというお話をいただきました。その「第1回地域とともにある学校づくりフォーラム」を受けての第2回目での平田オリザ先生の話だけに、これからの学びを創る(仮称)庄内さくら学園では、子どもたちにこんな力をつけたいといけないうんとより具体的なイメージを持つことができるお話でした。

平田オリザ先生は劇作家・演出家として現在豊岡市で江原河畔劇場を設立し、劇団活動をおこなうだけでなく、“芸術文化観光専門職大学”の学長も務めておられます。演劇を通して子どもたちに「対話の基礎体力」を身に付けるコミュニケーション教育に力を入れて活動されています。今回のお話でも実際に学校現場で演劇の指導を行っている中で感じられたことを例にあげながら、対話の持つ価値・意味についてわかりやすくお話していただきました。その対話ができる力を育てることがこれから必要な資質・能力につながっていくということを、大学入試の変化を例にあげながら説明していただきました。

今回の平田先生のお話の中で印象に残ったキーワードを記録をもとに紹介させていただきます。

◎会話と対話

会話：価値観などが近い親しい者同士のおしゃべり

対話：価値観や情報の交換。価値観が異なったときのすり合わせ。

対話は異なる意見がすり合わされて新しい考えを生みだす。異なる価値観を持った者が出会い、議論することで自分の考えが変わっていくことを積極的に受け入れる態度。

◎学力とは何か？

学ぶ力（学んだことではなく、どんな学びができるか）

例）大学入試改革→受験勉強では対応できない入試→身体的文化資本が問われる

◎身体的文化資本

→体験・経験等本物に触れることで身に付いていく

センス・マナー・コミュニケーション能力・美的感覚・感性・味覚

◎地頭が問われる：身体的文化資本。非認知能力。言語化。

◎主体的・対話的で深い学び

→主体的・対話的で愛のある学び

→主体的・対話的で共感のある学び（シンパシーからエンパシー）

これだけではよくわからないと思いますが、例えば「対話って何なんだろう」といったことで議論してみると、それぞれが持っている対話へのイメージや受け止め方が違っているのが見えてくると思います。それをすり合わせ、共有できるイメージを創り上げていくことがこれからの学びを考えていく上で必要なんだといったことをいわれているのだと思います。未来を生きる子どもたちに必要な資質・能力が育つ環境を創っていくためのそうした対話の中で、身体的文化資本・非認知能力・学ぶ力・エンパシーといったイメージが共有されていくのではと感じました。

豊中市さんのこの「地域とともにある学校づくりフォーラム」を進める中で教職員、保護者、地域住民が同じ土俵の上で、同じゴールに向かっていく連携・協働が生まれてきているんだと感じました。

福祉学習を Zoom で発信



松が丘小学校の4年生が3月9日（水）に Zoom で、保護者向けに自分たちが福祉体験の中で学び、考えたことを発信されました。4年生はこの1年、様々な福祉体験を積み重ね、様々な福祉体験をしたあと、もう一度地域を歩き、福祉という視点でまちを見直したようです。福祉体験



を積み重ねたことで、今まで気が付かなかった地域の中にあるバリアフリーや施設等に気づき、その意味を考える中で、ハード面だけでなく、人のつながりや思いやりといったメンタル面にも目が向くようになったようです。こうした

土壌が、5年生の活動につながっていくんだと改めて感じさせられました。また、保護者の方にとっても、授業参観的な意味合いだけでなく、子どもたちの発表を通して地域の現状や課題を考えるきっかけになったのではと思います。また、学校がどのような力をつけるために、こうした活動をおこなっているのか、低学年・中学年を振り返りながら高学年になるにあたって理解を深めて頂ける機会にもなったのではと思います。

当日は3人グループでまとめたことを各クラスで順番に発表しました。保護者の皆さんもご自身のご都合に合わせてながら、発表の時間に合わせて Zoom に入ってもらえるなど工夫されての参加だったようです。子どもだけでなく、保護者の皆さんも Zoom でのこうした交流が普通になってきたのではと感じます。このあと、福祉の話が話題にのぼった家庭もあると思います。そうした学習の余韻がこの学びを深い学びにしていくことにつながるのではと思います。

（文責：北本）